



川合考古資料館

可児市川合公民館



交通

JR可児駅、名鉄新可児駅より車で10分

開館時間

午前9時から午後4時30分まで

休館日

毎週月曜日、祝日の翌日休館
(月曜日が祝日の場合は開館)

入場無料



川合考古資料館へようこそ

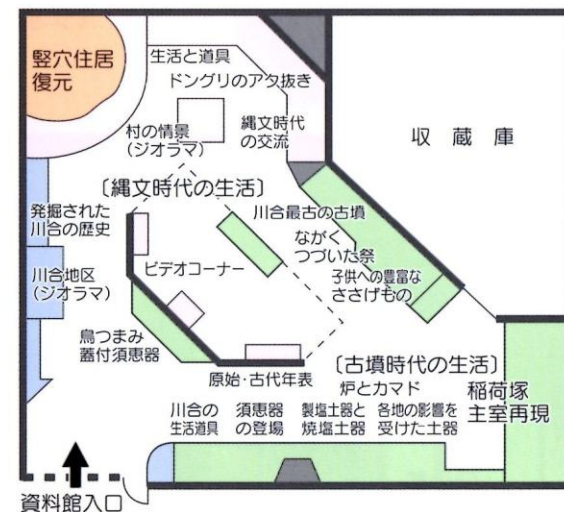
可児市には、一万年以上も前から人々の生活があったことがわかっています。

川合地区では、古くから縄文時代の遺跡や古墳があることが知られていましたが、土地区画整理事業をおこなうこととなり、平成2年から平成3年にかけて、川合地内で大規模な発掘調査を実施しました。

この調査により発掘された土器や石器、生活の痕跡から、特に縄文時代中期と古墳時代には、この地区に人々の豊かな生活があり、この地方でも重要な拠点の一つであったことがわかりました。

可児市では、発掘された遺物や遺構を、市民の財産として保存するとともに、先人たちの生活にふれていただけるよう、川合考古資料館を設立しました。

川合考古資料館展示案内



川合考古資料館(川合公民館内)

〒509-0208

可児市川合北2丁目14番地

TEL. (0574) 63-4339

●来館記念のスタンプを押しましょう。●



〔縄文時代の土器〕



◆脚付深鉢形土器

◆深鉢形土器

◆香炉形土器

〔縄文時代の暮らし〕

発掘調査により、宮之脇遺跡B地点から縄文時代中期の村の姿がよみがえりました。

住まいは、地面を掘り込んで建てた竪穴住居で、7～8軒で村をつくっていました。

また、石や木を巧みに加工してさまざまな道具をつくり、豊かな自然の恵みから季節に応じていろいろな食べ物を得ていました。



縄文時代の村のようす
(ジオラマ)

縄文時代の展示



●ドングリのアク抜き

9月から10月にかけて、村人総出でドングリのアク抜き作業がおこなわれました。ドングリは、クヌギ、ナラ、カシなど木の実のことで、縄文時代の人々の生活を支えた主食でした。



しかし、アクのあるドングリはそのままでは食料とならず、竪穴住居のおおきな炉で土器を使って加熱し、アクを抜きました。



◆鳥つまみ蓋付須恵器 (6世紀初め)

宮之脇11号墳から埴輪とともに出土し、脚付の壺に4つの子壺がついています。

蓋に飾られた鳥は、「鴨(かも)」を模したものと思われ、その大きさとつくりは他に例をみない立派なものです。

古墳時代の展示



古墳時代



稲荷塚古墳群発掘状況
(1号墳:左)



稲荷塚1号墳出土器

◆稲荷塚1号墳(6世紀末～7世紀初め)

石室内がほぼ埋葬されたままの状態が発掘された極めて貴重な古墳で、その様子を実物の大きさに復元展示しました。

銀で飾られた直刀のほか、鉾や矢、須恵器などが副葬され、金色の耳飾りやガラス玉を身につけて葬られていたことがわかりました。

◆次郎兵衛塚1号墳

一辺約30メートルの方墳で県下最大級。

三つの石室を持つ珍しい古墳です。

